

2019年(平成31年・令和元年)度～2022年(令和4年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【逗子市立久木中学校】

教育環境の充実		4年間を見据えた取組内容 ①学校安全の推進			
		2019年(平成31年・令和元年)度	2020年(令和2年)度	2021年(令和3年)度	2022年(令和4年)度
期首入力	学校の 実態と課 題	毎月末に安全点検を行い、できる範囲内で修繕を行っている。また、年3回の防災訓練を行っている。	防犯設備について、全職員に改めて周知徹底させる。昨今の様々な災害が起こっていることを踏まえ、学校全体の防災意識を高める。	0	0
	↓	↓	↓	↓	↓
	年度目 標	学校施設の定期的な点検を実施するとともに、防災・防犯教育を計画的に実施する。			
	↓	↓	↓	↓	↓
期末入力	取組計 画	毎月末に学校施設の定期的な点検を実施し、速やかに修繕を実施する。また、年3回の避難訓練(地震・津波・火災)を実施する。			
	↓	↓	↓	↓	↓
	実践した 内容	集団下校・火災想定・地震津波想定3回の防災訓練を行った。毎月末ではないが、安全点検も定期的に行うことができた。			
	↓	↓	↓	↓	↓
期末入力	達成度 評価	B			
	↓	↓	↓	↓	↓
	評価の 根拠	生徒の生活の安全は基本的に守られてはいるものの、施設の修繕が予算に関連して、全て実施されなかった。			
期末入力	↓	↓	↓	↓	↓
	学校の 実態を踏 まえた課 題	防犯設備について、全職員に改めて周知徹底させる。昨今の様々な災害が起こっていることを踏まえ、学校全体の防災意識を高める。			

2019年(平成31年・令和元年)度～2022年(令和4年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【逗子市立久木中学校】

柱Ⅰ		学習指導の充実		4年間を見据えた取組内容 ①授業改善の推進			
		2019年(平成31年・令和元年)度	2020年(令和2年)度	2021年(令和3年)度	2022年(令和4年)度		
期 首 入 力	学校の 実態と課 題	「主体的・対話的で深い学び」の視点から、授業改善の取り組みとして、「学びのプラン」を各教科で作成中である。	「学びのプラン」により、学習の見通しを持って授業に臨む態勢の推進はできたが、新学習要領の実施に際して、評価規準の学校全体・全教科での策定を行う。	0	0		
	↓	↓	↓	↓	↓		
	年度目 標	「主体的・対話的で深い学び」の視点から、授業改善・授業研究を推進する。					
	↓	↓	↓	↓	↓		
期 末 入 力	取組計 画	「主体的・対話的で深い学び」の視点から、「学びのプラン」を各教科で作成し、授業改善を推進する。					
	↓	↓	↓	↓	↓		
	実践した 内容	「主体的・対話的で深い学び」の観点から、「学びのプラン」を各教科で作成した。その実践報告を行い、反省やさらなる改善点を共有し、授業改善につなげた。					
	↓	↓	↓	↓	↓		
期 末 入 力	達成度 評価	A					
	↓	↓	↓	↓	↓		
	評価の 根拠	学校評価アンケートにおいて、「生徒が、学習の見通しを持って単元や授業に臨むことができた」という回答が顕著に見られ、学校全体で作成した「学びのプラン」が貢献している。					
期 末 入 力	↓	↓	↓	↓	↓		
	学校の 実態を踏 まえた課 題	「学びのプラン」により、学習の見通しを持って授業に臨む態勢の推進はできたが、新学習要領の実施に際して、評価規準の学校全体・全教科での策定を行う。					

2019年(平成31年・令和元年)度～2022年(令和4年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【逗子市立久木中学校】

柱Ⅱ		支援の充実			
		4年間を見据えた取組内容 ①支援環境の充実			
		2019年(平成31年・令和元年)度	2020年(令和2年)度	2021年(令和3年)度	2022年(令和4年)度
期 首 入 力	学校の 実態と課 題	教育相談COを中心とした支援委員会で、支援を必要とする一部の生徒に対して、アセスメントを行い、支援方針を立て推進している。	ニーズが必要な生徒を把握し、保護者とも連携をとり、生徒が必要な時間に適切な支援を受けられるよう、学年及び学校全体で取り組みを進める。	0	0
	↓	↓	↓	↓	↓
	年度目 標	教育相談COを中心とした支援委員会で、アセスメント及び支援方針を立て推進する。			
期 末 入 力	取組計 画	教育相談COを中心とした支援委員会で、支援を必要とする全ての生徒に対して、アセスメント及び支援方針を立て推進する。			
	↓	↓	↓	↓	↓
	実践した 内容	教育相談COを中心に、アセスメントを基に、生徒のニーズを把握して、校内支援委員会を通じた組織的な対応を進めることができた。			
期 末 入 力	達成度 評価	B			
	↓	↓	↓	↓	↓
	評価の 根拠	支援教室を活用して、個々の生徒が必要な支援を受けることができた。その一方、支援教室への来室まで至ることができない生徒もいる。			
期 末 入 力	学校の 実態を踏 まえた課 題	ニーズが必要な生徒を把握し、保護者とも連携をとり、生徒が必要な時間に適切な支援を受けられるよう、学年及び学校全体で取り組みを進める。			
	↓	↓	↓	↓	↓

2019年(平成31年・令和元年)度～2022年(令和4年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【逗子市立久木中学校】

柱Ⅲ	学校組織の充実	4年間を見据えた取組内容	②研究・研修の充実
-----------	----------------	--------------	------------------

		2019年(平成31年・令和元年)度	2020年(令和2年)度	2021年(令和3年)度	2022年(令和4年)度
期首入力	学校の実態と課題	教職員間の情報交換・共通理解は行われているものの、人材育成の観点から、意図的・計画的・継続的なOJTの取り組みまでには至っていない。	支援研修は、具体的で実践できる研修が行えているが、人材育成の観点が強く、学校組織全体の活力を上げるようなOJTの機会を持てるようにする。	0	0
	年度目標	教職員の人材育成の観点から、意図的・計画的・継続的にOJTに取り組む。			
	取組計画	日々の教育活動において、お互いに情報交換を行うとともに、校内研究や校内研修を通して、人材育成の観点から、生徒理解や授業改善等のOJTに取り組む。			
期末入力	実践した内容	主に、校内研究のテーマに関わって講師をお招きして研修を行うことにより、新学習指導要領の評価に関する見識を深め、評価規準の学校全体での策定への共通意識を持つことができた。			
	達成度評価	B			
	評価の根拠	校内研究や研修会で、教職員間で新学習指導要領の評価について、共通認識や共通理解ができていると感じる討論や検討ができてきている。			
	学校の実態を踏まえた課題	支援研修は、具体的で実践できる研修が行えているが、人材育成の観点が強く、学校組織全体の活力を上げるようなOJTの機会を持てるようにする。			